

渋川駅周辺地域再生構想 概要版

1. 構想の策定目的

この構想は、渋川駅周辺地域においてまちの課題に取り組むことによって、渋川市都市計画マスタープランに定める都市拠点かつ渋川市立地適正化計画に定める中心拠点の再生を図るため策定します。

2. 構想の目標年次

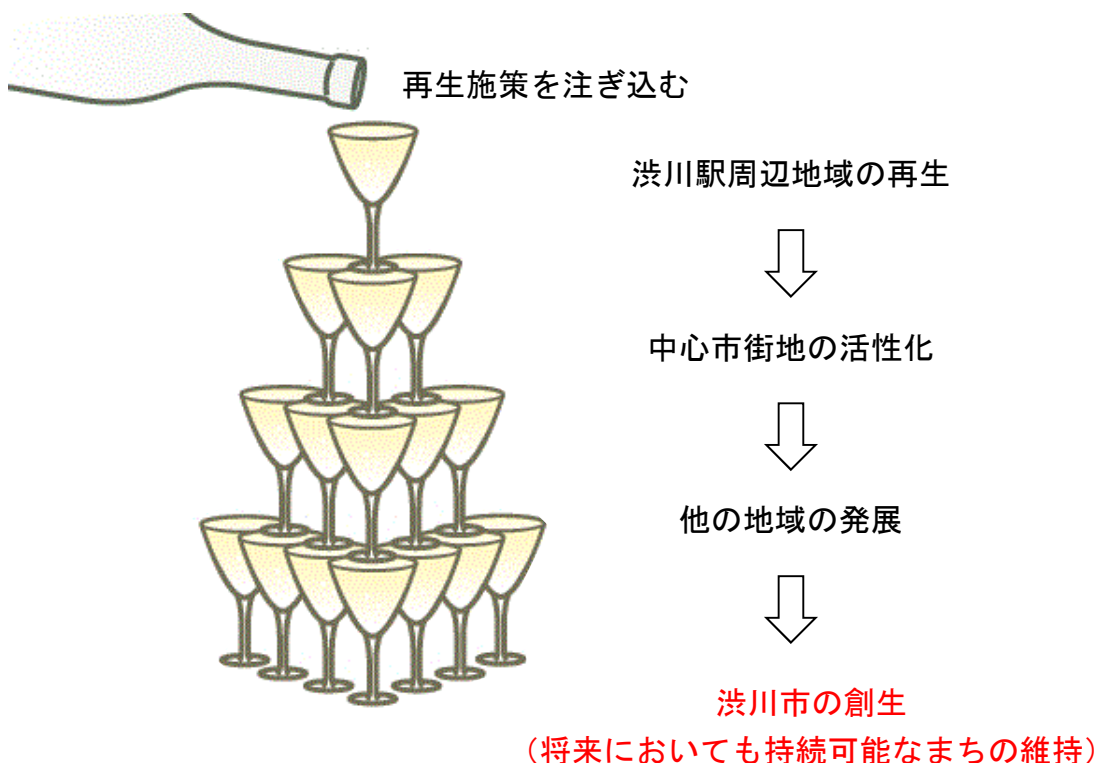
この構想は、渋川市立地適正化計画の目標年次に合わせて、おおむね20年後の令和22年の都市の姿を展望します。

3. 再生による効果と波及

渋川駅周辺地域の再生は、次に資するものです。

- ・活発な経済活動に必要な資金、人材、技術等の集積を通じた産業の生産性と競争力の向上
- ・イノベーション（技術革新）の創出
- ・人との絆が深まるコミュニティ力の向上
- ・住宅や生活サービス施設の資産価値の維持
- ・職住近接の子育てしやすいまちなか居住の推進
- ・多くの人々を引きつける魅力的でにぎわいのある市街地の形成

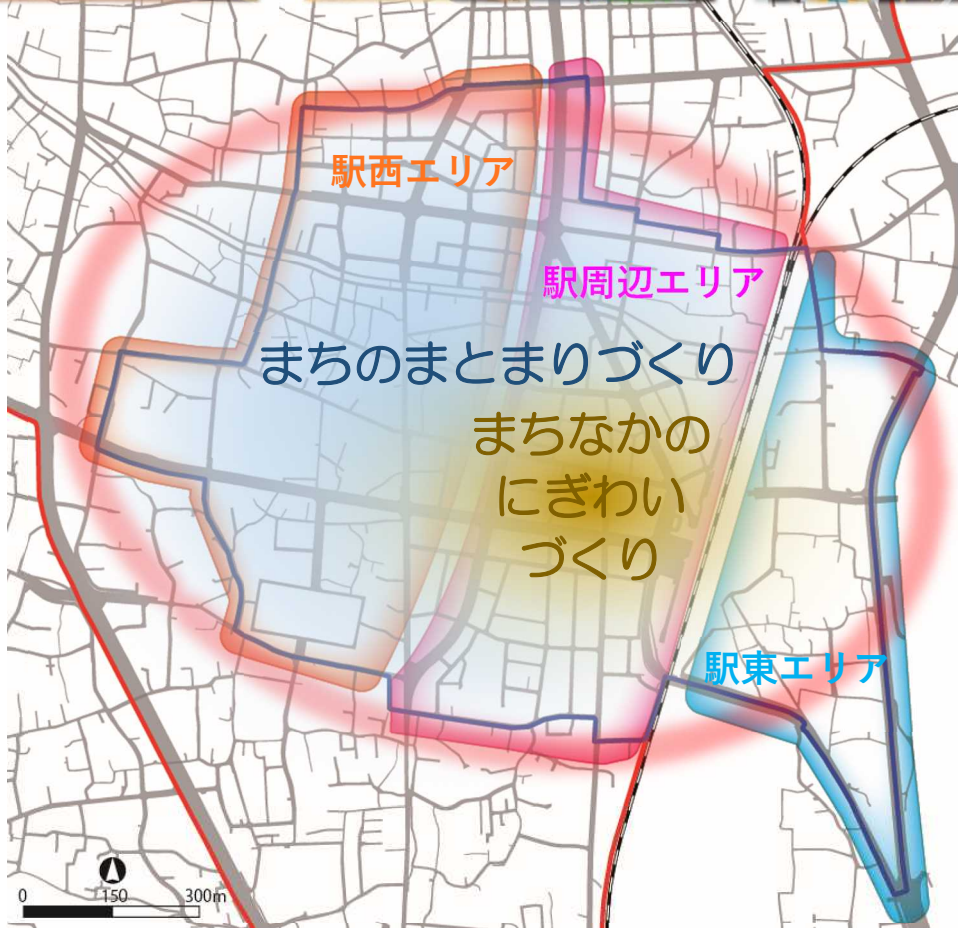
渋川駅周辺地域の再生による中心市街地の活性化を、他の地域の発展につなげ、本市の創生（将来においても持続可能なまちの維持）へと波及させます。



4. 再生ビジョン

渋川駅周辺地域の再生ビジョン（再生の根本的かつ理想的なまちづくりの考え方）は、渋川駅周辺地域の課題解決の視点を基にした「まちのまとまりづくり」と「まちなかのにぎわいづくり」を効果的に組み合わせて再生を目指す【まとまりとにぎわいが一体となった“ほっと”な渋川駅前】とします。

まとまりとにぎわいが一体となった“ほっと”な渋川駅前



渋川駅周辺地域再生構想 概要版

5 エリア別特徴・位置づけと課題

③駅西エリア

【特徴・位置づけ】

- ・市役所本庁舎と第二庁舎が立地
- ・図書館、社会福祉センター、市民体育館、美術館、渋川中学校が立地
- ・近隣に渋川南小学校、渋川女子高校が立地
- ・四ツ角周辺において土地区画整理事業が実施された

【将来像】

既存の都市機能集積や整備されたまちなみを活かした都市機能が集積したエリア形成

②駅周辺エリア

【特徴・位置づけ】

- ・駅前に位置し、駅へのアクセス性が高い
- ・駅から伊香保行きのバスが発着し、観光案内所が立地
- ・商店街やスーパーが立地
- ・渋川駅前プラザに観光、教育、行政機能（証明書発行）が設置されている
- ・都市機能誘導区域内の中で最も規模の大きい駅前児童公園が立地
- ・渋川広域消防本部、渋川公共職業安定所等が立地

【将来像】

駅や商業施設などの生活・商業・交流・観光拠点ににぎわいや回遊が生まれるエリア形成

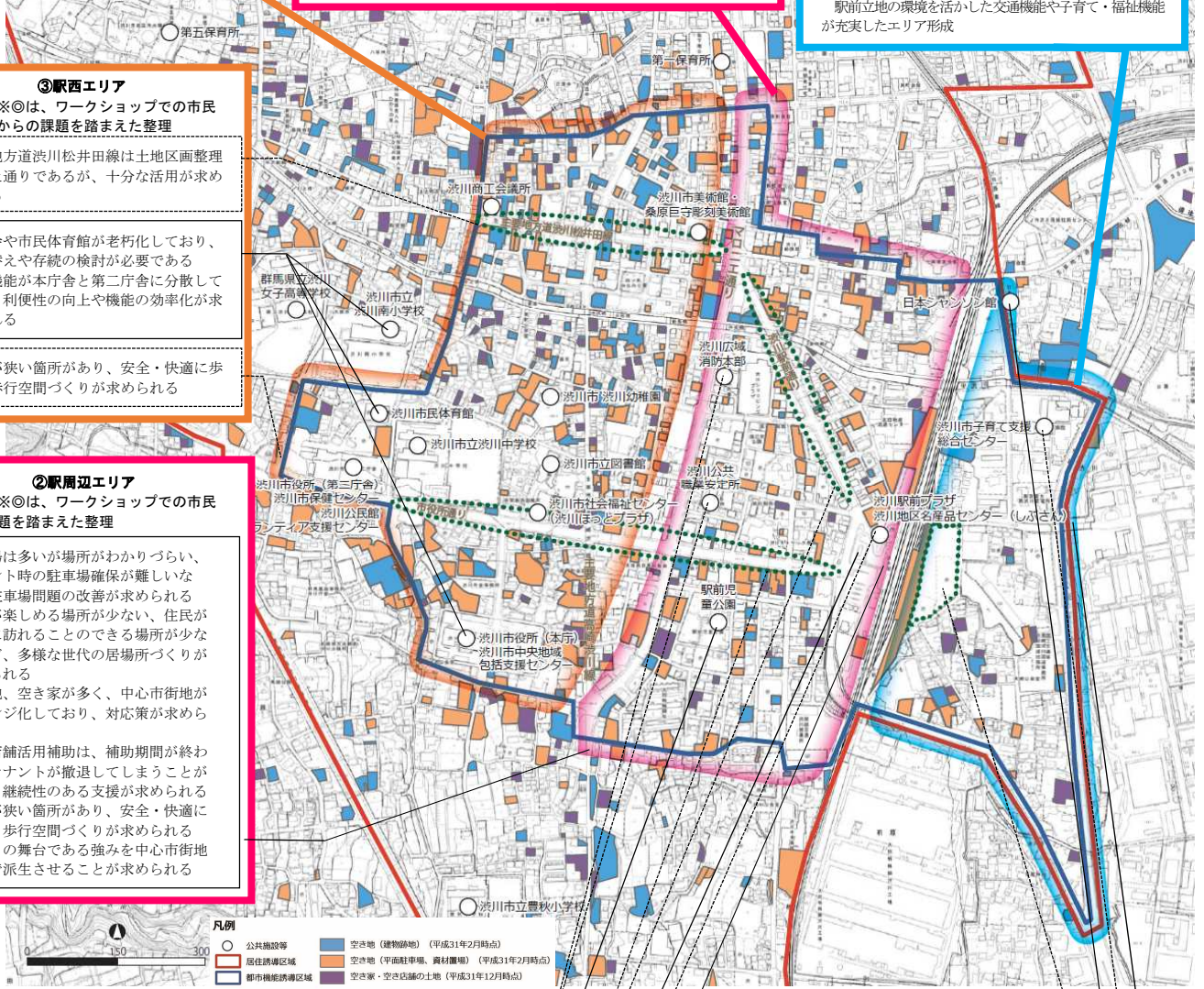
①駅東エリア

【特徴・位置づけ】

- ・駅前に位置するが、駅から直接アクセスできない
- ・アクセス道路が少なく、道幅が狭い
- ・駅前に広い民間駐車場が立地
- ・子育て支援総合センターが立地
- ・群馬バス大学福祉専門学校が立地
- ・比較的高さが低く、利根川の水害リスクが高いエリアに隣接
- ・工場が複数立地
- ・日本シャンソン館が立地

【将来像】

駅前立地の環境を活かした交通機能や子育て・福祉機能が充実したエリア形成



③駅西エリア

【課題】※◎は、ワークショップでの市民からの課題を踏まえた整理

- ◎主要地方道渋川松井田線は土地区画整理された通りであるが、十分な活用が求められる
- ◎本庁舎や市民体育館が老朽化しており、建て替えや存続の検討が必要である
- ◎行政機能が本庁舎と第二庁舎に分散しており、利便性の向上や機能の効率化が求められる
- ◎歩道が狭い箇所があり、安全・快適に歩ける歩行空間づくりが求められる

②駅周辺エリア

【課題】※◎は、ワークショップでの市民からの課題を踏まえた整理

- ◎駐車場は多いが場所がわかりづらい、イベント時の駐車場確保が難しいなど、駐車場問題の改善が求められる
- ◎学生が楽しめる場所が少ない、住民が気軽に訪れることのできる場所が少ないなど、多様な世代の居場所づくりが求められる
- ◎空き地、空き家が多く、中心市街地がスポンジ化しており、対応策が求められる
- ◎空き店舗活用補助は、補助期間が終わるとテナントが撤退してしまうことが多く、継続性のある支援が求められる
- ・歩道が狭い箇所があり、安全・快適に歩ける歩行空間づくりが求められる
- ◎アニメの舞台である強みを中心市街地にまで派生させることが求められる

②駅周辺エリア

【課題】※◎は、ワークショップでの市民からの課題を踏まえた整理

- ・渋川広域消防本部、渋川公共職業安定所等が老朽化しており、建替が検討されている
- ◎駅前児童公園の駐車場が不足（路上駐車が発生）しており、解消が求められる
- ◎市道駅前通り線は車と人通りが少なく、市道中村新町線は通学時以外の人通りが少なく、賑わいづくりが求められる
- ◎現在の駅前広場のタクシー乗場の広さに対し、タクシー利用客が少なく、駅前広場の空間が狭いことから、空間の有効活用が求められる
- ◎渋川駅前プラザの拠点性を十分に活かしていくことが求められる
- ◎伊香保温泉の玄関口であることを活かすことが求められる

①駅東エリア

【課題】※◎は、ワークショップでの市民からの課題を踏まえた整理

- ◎駅前が殺風景な景色となっており、駅前の立地環境を有効に活用することが求められる
- ◎日本で唯一の日本シャンソン館を賑わいづくりに活かす取り組みが求められる
- ◎子育て機能が子育て支援総合センターに集約されているものの、一部の子育て機能が市役所庁舎、渋川ほっとプラザに分散しており、より一層の充実が求められる
- ◎駅や西側からの車によるアクセスが悪く、立地施設を活かすための改善が求められる

6 各エリアの再生施策

